

蜻蛉日記『うつろひたる菊』定期テスト対策問題 | 現代語訳・和歌・文法の頻出設問と解答

組 番 氏名

／100点

本文

さて、九月ばかりになりて、出でにたるほどに、箱のあるを手まさぐりに開けて見れば、〔①〕人のもとに遣らむとしける文あり。あさましさに、〔②〕見てけりとだに知られむと思ひて、書きつく。

うたがはし ほかに渡せる 文見れば ここや〔③〕とだえに ならむとすらむ

など思ふほどに、〔④〕むべなう、十月つごもりがたに、三夜しきりて見えぬ時あり。つれなうて、「しばしころみるほどに。」など、〔⑤〕気色あり。

これより、夕さりつかた、「〔⑥〕内裏に逃るまじかりけり。」とて出づるに、心得で、人をつけて見すれば、「町の小路なるそこそこになむ、〔⑦〕とまり給ひぬる。」とて来たり。さればよと、いみじう心憂しと思へども、言はむやうも知らであるほどに、二、三日ばかりありて、あかつきがたに門をたたく時あり。さなめりと思ふに、憂くて開けさせねば、例の家とおぼしきところにもものしたり。

つとめて、なほもあらじと思ひて、

嘆きつつ ひとり寝る夜の 〔⑧〕明くる間は いかにかにしき ものと〔⑨〕かは知る

と、例よりはひきつくろひて書いて、〔⑩〕うつろひたる菊にさしたり。返りごと、「明くるまでも〔⑪〕ころみむとしつれど、とみなる召使の、来合ひたりつればなむ。〔⑫〕いとことわりなりつるは。

げにやげに 冬の夜ならぬ 真木の戸も 遅く〔⑬〕明くるは わびしかりけり」

とぞあるものから、しばしは〔⑭〕忍びたるさまにとや思ひけむ、たとしへなく心づきなく思ふほどに、見えたり。

設問

- 傍線部①「人のもとに遣らむとしける文あり」を、誰が誰に送ろうとした手紙かが分かるように現代語訳しなさい。
- 波線部の「らむ」「む」について、次の助動詞の文法的意味を答えなさい。
 - 傍線部①「遣らむ」の「む」
 - 傍線部③「ならむとすらむ」の「らむ」
- 傍線部②「見てけりとだに知られむ」について、次の問いに答えなさい。
 - 「だに」の意味・用法を説明しなさい。
 - 「られ」の文法的意味（助動詞「る」の意味）を答えなさい。

- 全体を現代語訳しなさい。
4. 傍線部④「むべなう」の意味を答えなさい。また、ここで作者が「むべなう（なるほど）」と感じたのはどのような事態か説明しなさい。
5. 「三夜しきりて見えぬ時あり」とはどのような状況か。当時の結婚の習わしをふまえて説明しなさい。
6. 次の語句の本文中での意味を答えなさい。
- あさましさ
 - つれなし（「つれなうて」）
 - 心憂し
 - つとめて
7. 傍線部⑤「気色あり」、傍線部⑥「内裏に逃るまじかりけり」について答えなさい。
- 「気色あり」とはここでは兼家のどのような態度を表すか、現代語訳を含めて説明しなさい。
 - 「まじかり」の文法的意味を答えなさい。
8. 傍線部⑦「とまり給ひぬる」について、次の問いに答えなさい。
- 「給ひ」は誰に対する敬意を表す敬語か。敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）とあわせて答えなさい。
 - この敬語は、誰が用いている言葉の中の敬語か。会話文か地の文かに注意して説明しなさい。
 - 「ぬる」の文法的意味と、連体形になっている理由を答えなさい。
9. 「さればよ」とはどういう意味か。作者のどのような気持ちが込められているか説明しなさい。
10. 「憂くて開けさせねば」について、次の問いに答えなさい。
- 誰が、何をする門を「開けさせ」なかったのか説明しなさい。
 - 「させ」「ね」の文法的意味（助動詞の意味）をそれぞれ答えなさい。
11. 和歌Ⅱは作者のどのような心情を詠んだ歌か。「ひとり寝る夜」「明くる間」という表現に注意して説明しなさい。
12. 和歌Ⅱ「嘆きつつひとり寝る夜の明くる間はいかに久しきものとかは知る」の傍線部⑧「明くる間は」には掛詞が用いられている。どの語に、どのような二つの意味が掛けられているか説明しなさい。
13. 和歌Ⅱの傍線部⑨「ものとかは知る」について、次の問いに答えなさい。
- 「かは」の文法的説明をしなさい（係助詞の意味・用法）。
 - この「かは」によって結びの語「知る」はどのように変化しているか、係り結びの観点から説明しなさい。
 - 「かは」をふまえて、結句の意味を現代語訳しなさい。
14. 傍線部⑩「うつろひたる菊にさしたり」について、次の問いに答えなさい。
- 「うつろひたる」とはどのような状態の菊か説明しなさい。
 - 作者が和歌を「うつろひたる菊」に挿して贈ったのはなぜか。菊が象徴するものをふまえて説明しなさい。
15. 傍線部⑪「こころみむとしつれど」、傍線部⑫「いとことわりなりつるは」について答えなさい。

- 兼家は何を「こころみ（試み）」ようとしたと言っているのか説明しなさい。
 - 「ことわりなり」の意味を答え、兼家がこう言った意図を説明しなさい。
16. 「たとしへなく心づきなく思ふ」について、次の問いに答えなさい。
- 「たとしへなし」「心づきなし」の意味をそれぞれ答えなさい。
 - 作者がこのように感じているのはなぜか説明しなさい。
17. 作者が箱の中の手紙を見つけたあと、わざと和歌を書きつけたのはなぜか。その心情を説明しなさい。
18. 和歌Ⅰ「うたがはし ほかに渡せる 文見れば ここやとだえに ならむとすらむ」について、次の問いに答えなさい。
- この歌で詠み手（作者）が疑っている内容を、具体的に説明しなさい。
 - 「とだえ」とはどういうことか、この場面に即して説明しなさい。
 - 歌全体を現代語訳しなさい。
19. 和歌Ⅲ「げにやげに 冬の夜ならぬ 真木の戸も 遅く明るくは わびしかりけり」について、次の問いに答えなさい。
- この歌は和歌Ⅱのどの表現を受けて詠まれているか。応答の関係を説明しなさい。
 - 「げにやげに」の意味を答えなさい。
 - 歌全体を現代語訳しなさい。
20. 和歌Ⅱと和歌Ⅲをふまえ、この贈答歌のやりとりから読み取れる兼家の人物像を説明しなさい。
21. この場面全体を通して描かれている作者の心情を、「嫉妬」「苦悩」という語を用いて百字程度で説明しなさい。
22. 『蜻蛉日記』について、次の問いに答えなさい。
- この作品の作者は誰か。一般的な呼称で答えなさい。
 - 作者の夫で、本文に登場する人物は誰か。漢字で答えなさい。
 - 本文に登場する作者と夫の間に生まれた子で、のちに歌人として知られた人物は誰か。
23. 『蜻蛉日記』の文学史上の位置づけについて、次の問いに答えなさい。
- 『蜻蛉日記』は何という文学ジャンルに属するか。ジャンル名を答えなさい。
 - このジャンルの作品として現存するもののうち、女性の手による最初の作品とされるのは何か。
 - 『蜻蛉日記』が成立したのは何時代か。また、おおよそ何世紀の作品か答えなさい。